

● 貞山運河（木曳堀，御舟入堀，新堀の総称）

- 木曳堀：阿武隈川と名取川間は木曳堀といい，県南地方と仙台とを水路で結ぶとともに名取谷地を開発したもので，後に石巻港を開いた川村孫兵衛重吉によって，慶長6年（1601）頃までに掘られたと考えられます。仙台城及び城下町建設の用材運送などに大いに役立ったといわれ，政宗が工事を見に来た時の口碑が残されています。



木曳堀（貞山運河）

- 御舟入堀：松島湾と七北田川間は御舟入堀といい，県北地方と仙台とを水運で結ぶもので，何回かにわたって堀り継がれ，最後は蒲生邑和田織部らによって寛文13年（1673）に，七北田川川苦竹までの舟曳堀とともに完成しました。貢米などがこの運河で仙台城下に運びこまれました。
- 新堀：七北田川と名取川間は新堀といい，維新後の士民救済事業のひとつとして，沿川谷地の開拓と水運のため仙台藩庁の秋保昇らによって，明治三年から五年（1870～二）にかけて掘られたものです。



北貞山運河（井戸浦付近）



南貞山運河

これらの木曳堀，新堀，御舟入堀は野蒜築港がはじまると，その関連工事として県土木課により拵改修され，明治22年（1889）にはほぼ現在の姿に完成し，小型蒸気船などが運行しました。

【出典：「貞山・北上運河沿革考 遠藤剛人著」より】